

## 越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)



supported by Benesse Corporation

CASE  
No.05

新潟県  
十日町市、津南町

### 基本情報

所在地	新潟県十日町市、津南町
主な取組内容	大地の芸術祭開催によるアート作品で里山景観再認識のきっかけに
実施体制	<p>中心的主体 大地の芸術祭実行委員会(参加者:十日町市、津南町、経済団体、観光関係団体、教育・文化関係団体、奉仕・地域づくり関係団体、地域団体、新潟県等)</p> <p>連携主体等 NPO法人越後妻有里山協働機構、こへび隊(サポート活動組織)</p>
生態系タイプ分類	ミズナラ林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、草地、畑、小川・水路、池沼・湿地、ため池、社寺林、人工林

### 取組内容

越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)は、新潟県南部に位置する中山間地域であり、冬には2mを超える積雪がある豪雪地帯である。地域には今なお、森林や棚田などで構成される美しい景観や固有の生活文化が継承されているが、近年の過疎化・高齢化によってこれらの継承が危ぶまれている。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(以下、「芸術祭」と呼ぶ。)は、地域資源を活用した活性化を図るため、越後妻有地域の全域(約760km<sup>2</sup>)を芸術の舞台に見立て、そこに地元住民と世界の第一線で活躍するアーティストとの協働によって現代アート作品を設置・展示するプロジェクトである。芸術祭のコンセプトは「人間は自然に内包される」であり、目的は「交流人口の増加」・「地域の情報発信」・「地域の活性化」の3つである。

第一回目の芸術祭が2000年に開催され、その後3年ごとに開催され、2012年には第五回目が開催される予定である。また、これらの間にも、様々な関連イベントやプログラムが開催されている。



越後妻有地域の景観  
(上:星峠の棚田、下:美人林(ブナ林))

### 取組の特徴

POINT  
1

#### 景観や生活文化を基盤とする新たなプログラムの実施

里地里山の地域資源と「現代アート」を結びつけた地域内外のコミュニケーション

芸術祭の舞台は、伝統的な景観や生活文化が継承されている地域住民の生活・生業の場であり、そこに「現代アート」を設置するという従来にない新しい組み合わせは、当初から多くの地域住民に受け入れられたわけではなかった。第一回目の芸術祭に参加した集落は28集落であったが、そのうち棚田等の民有地への設置協力が得られた集落はわずかであり、多くの作品は公園などの公共スペースに設置された。

しかし、地域の外から多くの人々が訪れて楽しんでいる様子を地域住民が目にしたことや、芸術祭に対する全国的な関心や評価の声がマスコミ等を通じて地域住民に伝わったこと、そしてサポーター集団「こへび隊」の熱心な活動により、徐々に理解と協力が拡大し、開催を重ねるごとに参加集落・会期中作品数・入込客数が増加し、様々な空間に作品が展開するようになった。

また、地域住民の間で、アーティストや都市からの来訪者とのコミュニケーションを通じて、芸術祭の舞台である地域の景観や生活文化の素晴らしさが再認識されてきている。



設置された作品の数々



#### これまでの開催実績

開催年	入込客数	参加集落	会期中作品数
2000年	162,800人	28集落	146作品
2003年	205,100人	38集落	224作品
2006年	348,997人	67集落	329作品
2009年	375,311人	92集落	365作品

#### エピソード: 芸術祭をきっかけとした棚田耕作の継承

第1回芸術祭で、ロシアのイリヤ&エミリア・カバコフ作「棚田」が設置された場所は、地元農家の福島友善氏の所有地である。福島氏は、芸術祭の開催前には耕作をやめようかと考えていたが、自分の棚田まで数多くの人が作品の観覧に来てくれたり、福島氏に話しかけてくれたことに喜びを感じ、その後6年間にわたって棚田の耕作を続けた。

POINT  
2

#### 景観や生活文化を活用する取組への展開

「アート」を付加価値とする都市農村交流事業や地域産品振興への展開

芸術祭による地域内外の交流の拡大を契機として、新たな都市農村交流事業や商品開発の取組が生まれている。

例えば、2003年には、十日町市松代地区で、棚田の継承を目的とする「まつだい棚田バンク」が始まった。これは、地域外の在住者が棚田の里親(オーナー)となり、農作業に参加する代わりに配当米を受け取る仕組みである。現代アートの鑑賞に訪れた人を、里地里山の保全活動に誘う仕組みとして機能しており、現在は約100組が参加している。

また、地域産品振興の取組として、「Rooots 越後妻有の名産品リデザインプロジェクト」が始まっている。これは、地域産品と全国の若手クリエイターのマッチングを行い、新しいパッケージを生み出す取組である。これまで米や日本酒、菓子など約30点が実現し、地域産品の売上増加に貢献している。また、「2010年度グッドデザイン賞・パブリックコミュニケーション部門」など数々の賞を受賞している。



棚田バンク参加者による作業の様子



リデザインプロジェクトにより生み出されたパッケージ



## 取組の成果

- 芸術祭の準備と開催を通じて、地域住民とアーティストの交流、地域住民どうしの新たな交流、地域住民と都市住民の交流、海外からのアーティストや鑑賞者来訪による国際交流など、地域内外を問わず多様な交流が生まれている。
- 芸術祭への来訪者やマスコミ等が、芸術祭の内容や越後妻有地域の素晴らしさを高く評価し、それが地域住民に伝わったことにより、地元住民が自らの地域の景観や生活文化を再認識することにつながった。
- 芸術祭を継続したことにより、都市農村交流を通じて棚田の担い手確保を目指す「まつだい棚田バンク」や、景観や生活文化の基盤となる産業の活性化を目指す「Rooots 越後妻有の名産品リデザインプロジェクト」など、里地里山地域の社会・経済的課題の解決に寄与する新たな取組が始まっている。



### 取組のキーパーソン・キーセクション

#### NPO法人越後妻有里山協働機構

NPO法人越後妻有里山協働機構は、2007年に設立された芸術祭のサポート組織であり、文化・芸術を媒介にして人と人をつなぎ、住民が元気で誇りをもって暮らし、訪れる人々と夢や希望を分かち合える地域をつくることを目的としている。

コンタクト先:越後妻有「大地の芸術祭の里」総合案内所 〒942-1526 新潟県十日町市松代3743-1  
TEL 025-595-6688 E-mail info@tsumari-artfield.com URL http://www.echigo-tsumari.jp/

## 同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	集落	都道府県名	市町村名	取組内容
木藤古集落(ハツリー村)	19	岩手県	久慈市	伝統的な山村文化の継承・再生、長年にわたる都市農村交流活動も
一関本寺	21	岩手県	一関市	地域住民が自ら地域資源を見直すことによる、農村景観を活かした地域づくりと歴史的景観の保全
坪沼地区	24	宮城県	仙台市	里地里山景観を活かして都市との交流を進め、地域活性化・文化伝承へ
富士権現山山麓	33	茨城県	桜川市	鎮守の森を守るため、周辺の里地里山の保全と文化継承の活動
谷田・武西の谷津	43	千葉県	白井市、印西市	里地里山のあるニュータウンを自然共生を考慮した住環境モデルに
国営昭和記念公園「こもれびの里」	45	東京都	立川市	行政と協働で整備した公園内の里地里山エリアで生活行事などを継承
遠州南部地区	60	静岡県	掛川市、袋井市、磐田市	地域の各分野の専門家集団が文化伝承と農業継承の重要性を訴え
青鬼	69	長野県	白馬村	集落農家が稲作を続け、伝統的な水路や棚田を継承することで農村景観を保全
信濃町癒しの森	70	長野県	信濃町	森の癒し効果に着目し、都市住民向けのプログラムを官民共同体制で展開
針江地区	79	滋賀県	高島市	伏流水を集落全体で利用する水文化を再評価し、エコツアーに活用
上世屋地区	84	京都府	宮津市	藤織り、ササ葺き家屋再生などを通じて技術伝承と里山管理
美山町江和地区	88	京都府	南丹市	荒廃した森林を住民主導で整備し、在来種の樹木で集落景観を維持
森地区	91	大阪府	交野市	民間企業主体で府の制度も活用し伝統あるサクラの森を再生
砥峰高原	98	兵庫県	神河町	ススキ草原の景観保全のための伝統的手入れと観光資源としての活用
稲刈棚田	101	奈良県	明日香村	オーナー制定着後「棚田ルネッサンス」として共生の新しい文化発信
奥出雲	109	鳥取県	奥出雲町	砂鉄と木炭による「たたら製鉄」の遺構と伝統技術継承の取組み
大井和西棚田	112	岡山県	美咲町	棚田を活かした農産物のブランド化や地域活性化に官民挙げて取り組み、棚田を保全
檜原の棚田	119	徳島県	上勝町	オーナー制度等の外部交流を通して棚田景観を保全
中山千枚田	120	香川県	小豆島町	耕作放棄田を水利組合が手入れして棚田景観を保全、伝統芸能も継承
石畳地区	124	愛媛県	内子町	むら並み博物館と称し、生活風景を保全しながら石積み技術等を継承
鴻ノ巣山特別緑地保全地区	128	福岡県	福岡市	都市内に残された里山で落葉広葉樹林の回復により景観保全
白糸台地の棚田群	134	熊本県	山都町	棚田オーナー制度を中心として都市と農村が深く交流することにより地域を活性化
井上地区	136	大分県	豊後大野市	歴史ある農業水利施設を活用した農業生産の継続と農村文化の保全活用
都井岬	138	宮崎県	串間市	伝統的に行われてきた野焼きや放牧によって草原を維持することで、草原の景観や生き物を保全
喜如嘉地区	142	沖縄県	大宜味村	後背林からの多様な自然資源を利用し、染織などの伝統工芸を継承
東崎	144	沖縄県	与那国町	伝統的に行われてきた与那国馬の放牧によって草原の環境・景観を維持

## 取組の手法④-a: 里地里山の価値に対する社会的認識の向上

### 北田地区(徳島県海陽町)



## 基本情報

所在地	徳島県海部郡北田地区	
主な取組内容	中学校の総合学習でのビオトープ整備・運営に多様な主体が協力	
実施体制	中心的主体	宍喰中学校
	連携主体等	地域住民、地域の業者、専門家
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林	
地域区分	中山間地	
環境タイプ	水田、人工林	

## 取組内容

海陽町立宍喰中学校では毎週の総合学習の時間において、「土に親しみ、自然を科学し、人とかかわる」をテーマとした「宍中村」学習を行っている。宍中村学習では、全学年を生産村、科学村、地域村の3グループに分け、様々な体験学習を行う。その一環として、学校に隣接した棚田の休耕地をビオトープとして再生させ、子どもたちが管理活動や自然観察等を行っている。

全学年が3グループに分かれ、全学年が一緒に体験学習を行うことでリーダーシップや人との関わり方の育成を目指している。また、年一回行われるグループ分けの際にはできる限り子どもたちの希望を取り入れるようにし、宍中村活動を通して子どもたちが好きなことを見つけ、積極性や問題解決能力等が育つことをねらいとしている。

活動の内容によっては地域の様々な人たちと協力して活動を行っている。また、子どもたち自らが毎週「宍中村だより」を発行し、保護者や地域の方に活動報告をしている。



ビオトープにおける活動の様子  
(上:草刈、下:泥遊び)



## 取組の特徴

POINT  
1

### 生産・科学・地域を通じた環境教育

総合的学習の時間を利用し、全学年協働で活動を実施する宍中村学習

宍喰中学校は総合的学習の時間を利用して、「宍中村」学習と呼ばれる体験プログラムを実施している。このプログラムでは、全生徒を「生産村」、「科学村」、「地域村」の3グループに分け、グループごとに全学年が一緒になって活動を行っている。また、グループの中ではさらにいくつかの「班」に分かれており、内容によっては地域の方とも協力しながら、多様な体験プログラムを実施している。

#### 宍中村学習の概要



#### 宍中村祭(12月)

餅つきなど、生産村の収穫物を利用した催しや活動報告等を行う。(収穫祭のような位置づけ。)

#### 全校発表会(3月)

宍中村祭の後、1年間の学習をまとめ、全校発表会を行う。体験を実施するだけでなく、自らそれをまとめ、発表することで表現する力の育成を目指す。



## 取組の成果

- 宍中村学習は子どもたちが地域の自然、文化や地域の人たちとの関わりについて考えるきっかけをつくり、地域や環境へ関心を深めることに貢献している。
- 地域の自然や文化に対する関心が深まり、また、自分たちと自然や地域の人たちの関わりに関する理解が進んだ。
- 保護者や地域住民が子どもたちの活動内容の報告を楽しみにするようになった。
- 総合的学習の勉強が好きであると感じている生徒が8割を超えており、生徒からの満足度も非常に高い取組となっている(全国平均は約2割。平成20年度全国学力・学習状況調査より)。
- 約10年続けてきたことにより、子どもたち、地域住民、教師と一緒に考えながら進める体制や体験プログラムの内容が熟成されてきた。
- 休耕地だった棚田が多様な生物の生息地として再生され、その環境が維持されている。
- 全国学校ピオトープコンクール2007(財団法人日本生態系協会主催)にて、文部科学大臣賞を受賞した。

#### 取組のキーパーソン・キーセクション

### 海陽町立宍喰中学校

海陽町立宍喰中学校は全校生徒が90名ほどの中学校である。以前から体験学習等を行っていたが、「総合的学習の時間」が導入されたことを契機として宍中村学習を開始した。それぞれの得意分野を持つ教師が地域住民、時には専門分野の講師と協力しながら、体験型の教育プログラムを実施してきた。現在では保護者からも子どもたちからも満足度が高いプログラムとなっており、人と自然、人と人の関わり方への理解も進んでいる。

コンタクト先: 海陽町立宍喰中学校 〒775-0502 徳島県海部郡海陽町久保字北田5  
TEL 0884-76-2048 E-mail sisichu@nmt.ne.jp URL <http://www.nmt.ne.jp/~sisichu/>

POINT  
2

### 地域の中での理解の醸成

地域の人たちが活動に協力し、また、子どもたち自らが地域に報告する

宍中村学習は、その内容に応じて地域住民とも協力して実施しており、協働活動を通して、子どもも地域住民も、地域の産業や伝統文化にも触れる機会となっている。また、地域村の中の報道班は「宍中村だより」を通して各班どうしと、家庭、地域を繋ぐ役割を担っている。このような協働活動を通して、子どもたちや地域住民が地域の自然・文化等の大切さについて考えるきっかけにもなっている。



#### 地域との協働した主な活動

活動内容	地域との協働
ピオトープ作り	ピオトープは学校に隣接する私有地であるが、地権者の理解を得て、活動フィールドとして借りている。
活動小屋づくり	ピオトープにある活動小屋は地元の製材業者と協力して建てた。
宍中村祭	宍中村祭には保護者や地域住民も訪れる。餅つき等は地域住民と協力する。
生産村・花班	地域住民と協働で花を植える。
報道班	活動内容を保護者や地域住民に伝え、それぞれをつなぐ役割。
アオリイカの産卵場づくり	地域の林業者と協力して森林の間伐・枝打ち等の森林管理体験を行い、得られた資材をアオリイカの産卵場として利用する。
地域村・職業班	地域の会社や公共施設、美化センター等と協力した学習を実施。
地域村・郷土芸能班	団七踊り等の郷土芸能を地域住民から教わる。

この他にも様々な部分で地域住民と協力している。地域の人と関わる事も学習の一つのねらいとしている。

#### 同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
にいつ丘陵	53	新潟県	新潟市	市民参加の里山づくりにより山林所有者の保全再生意識の向上を図る
龍谷大学「龍谷の森」	77	滋賀県	大津市	大学所有の里山林で市民参加の保全活動、新たな利用モデルを模索
朝倉南地区	122	愛媛県	今治市	公民館を中心に、歴史的な風土から、地域の環境保護意識を学ぶ



## 呉羽丘陵(富山県富山市)



富山県 富山市

### 基本情報

所在地	富山県富山市古沢	
主な取組内容	市立動物園を中心に、人、自然、文化を結びつける新しい里山利活用	
実施体制	中心的主体	悠久の森実行委員会(呉羽丘陵周辺の44団体・3個人が加盟、詳細は後述)
	連携主体等	富山市
生態系タイプ分類	コナラ林(西日本)	
地域区分	都市周辺(平地・盆地・丘陵地)	
環境タイプ	二次林、草地、水田、畑、小川・水路、池沼・湿地、ため池、人工林、竹林	

### 取組内容

富山市の市街地から身近な場所に位置する呉羽丘陵は、かつての薪炭林等としての利用が減少したことや、手入れされなくなった孟宗竹林の繁茂などが原因で荒廃が進んでおり、絶滅危惧種に指定されているホクリクサンショウウオをはじめ、多くの生き物の減少が発生している。これに対して、呉羽丘陵を始めとする富山市内各地で、里山の保全・利用に向けた取組が開始されたが、個々の活動では継続性や規模拡大などに限界があった。

このため、地域の多様な主体の相互連携ネットワークにより、時代にあった新しい里山再生モデルの創造を目指す運動として「くれは悠久の森事業」(以下、「悠久の森事業」という。)が開始された。また、その推進組織として「悠久の森実行委員会」が設立された。

悠久の森事業では、呉羽丘陵の一角にある市立動物園「富山市ファミリーパーク」を拠点として、現代の里山にできるだけ多くの人に訪れてもらうための手段として、自然・文化・歴史・民俗・音楽・芸術などの多様な視点に光を当てた多様な市民向けプログラムが提供されている。



呉羽丘陵の景観  
(上:呉羽丘陵の全景、  
下:絶滅危惧種のホクリクサンショウウオ)

### 取組の特徴

POINT  
1

#### 里地里山に地域住民を誘うためのイベント開催

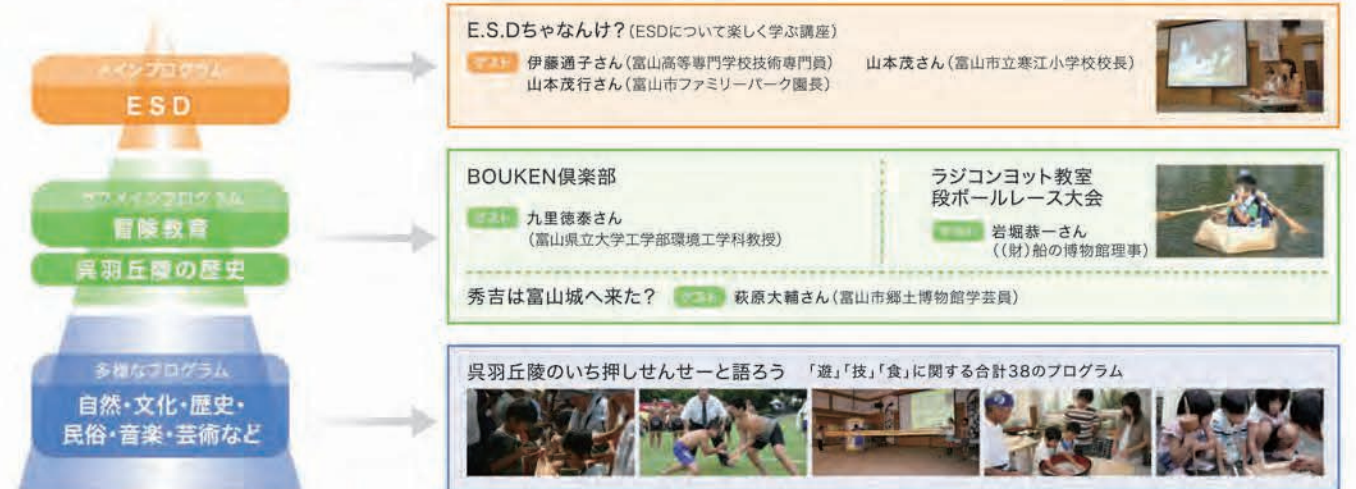
地域住民主体型のイベント運営と住民の特技を活かした多様なプログラムの提供

悠久の森事業の中核をなす基本事業として、2007年から毎年1回、幅広い地域住民、及び市民に呉羽丘陵に足を運んでもらい、「新しい里山の利用」について知ってもらうとともに、呉羽丘陵の将来について一緒に考えてもらう機会を設けることを目的にイベント「悠久の森フェスタ」を開催している。

第1回(2007年)の時点では富山市ファミリーパークが中心となってイベントを運営していたが、第2回(2008年)の開催に当たって、様々な特技を持つ地域住民を「いち押しせんせー」として登録し、「住民が住民に教える」というスタイルを導入したことが大きな転機となり、以降は「地域住民主体型」でイベントが運営されている。

イベントの内容は、「新しい里山再生モデルの創造」という事業理念を踏まえた「メインプログラム」及び「サブメインプログラム」と、地域住民を里山に誘うための「いち押しせんせー」による多様なプログラムで構成される。このうちメイン・サブメインプログラムは、回を重ねるごとに内容が充実しており、現在は「ESD(持続可能な開発のための教育)」、「冒険教育」、「生物多様性」といったテーマに力が注がれている。

#### 「悠久の森2010 森と語ろう」の概要(2010年8月28日・29日開催)



POINT  
2

#### 里地里山を舞台とする継続的なプログラムの提供

地域の施設や特産品等の連携による通年にわたる里山体験プログラムの提供

悠久の森事業では、毎年1回のイベントに加えて、「くれは里山ネット(施設連携事業)」(呉羽丘陵を中心とする様々な施設・市民団体・教育機関等の連携プログラム)や、「地域活性化事業」(地元の特産品や農産物振興に関するプログラム)も実施されている。これらのプログラムは年を重ねるごとに充実しており、地域住民が通年にわたって里山と触れ合うことができる機会となっている。

#### 「くれは里山ネット」(平成22年度実施)のプログラム

4月	①春の里山! 史跡探訪ウォーク【里山・史跡のガイドツアー】 ②縄のルーツを旅しよう【縄をテーマとする講義、体験、動物ガイド】
7月	③じゃがいも掘り体験【じゃがいも掘り体験と試食】
8月	④風鈴と絵付け体験【呉羽小学校児童によるガラスの風鈴の絵付け体験】 ⑤お泊まり動物園と吹きガラスツアー【子ども向けの1泊体験ツアー】 ⑥梨狩り体験ツアーとファミリーパークの集い【梨狩り体験とファミリーパーク散策】
10月	⑦サツマイモ掘り体験【サツマイモ掘り体験と試食、掘ったイモの動物への餌やり】 ⑧呉羽そば「食」プロデュース事業【そば猪口・竹箸づくりと手打ちそば体験・試食】
11月	⑨冬野菜鍋の振る舞いと青空市【地元の冬野菜鍋の振る舞いと青空市の開催】
2月	⑩あなたの蕎麦に【カップル向け手打ちそば体験と試食】 ⑪ノルディックウォーク【ストックを使ったウォーキング体験】



じゃがいも掘り体験の様子



## 取組の成果

- 毎年1回開催されているイベント「悠久の森フェスタ」は、1～2日間の開催期間中に約1万人の来場者があり、地域住民や市民に呉羽丘陵の里山に足を運んでもらい、その保全・活用の必要性を理解してもらう契機となっている。また、その際に「いち押しせんせー」を通して呉羽丘陵には自然・文化・歴史・民俗・音楽・芸術など様々な要素があり、その全てが地域の財産であるという意識を地域住民に持ってもらう契機にもなっている。
- 毎年恒例のイベントに加えて、年を追うごとに「施設連携事業」や「地域活性化事業」などの通年プログラムが充実しており、年間を通じた呉羽丘陵の里山の利用増進にも寄与している。
- ESD(持続可能な開発のための教育)や冒険教育をテーマとするプログラムの実施や、地域の学校の環境教育との連携などを通じて、呉羽丘陵の里山を担う「次世代の人づくり」に寄与している。
- 市立動物園である「富山ファミリーパーク」が、自ら生物多様性保全に取り組むとともに、地域住民や活動団体による活動への支援や助言等を行うことにより、呉羽丘陵の生物多様性保全に寄与している。



### 取組のキーパーソン・キーセクション

#### 悠久の森実行委員会

事業の推進組織である「悠久の森実行委員会」は、地域の多様な主体の参加と協働によって、大人と子どもが互いに、呉羽丘陵が持つ多様な地域資源について「気づき・考え・実行する」ための活動を推進している。  
平成23年3月現在、下記の44団体と3人の個人が参加している。

コンタクト先: 悠久の森実行委員会事務局  
〒930-0151 富山市古沢254番地 富山ファミリーパーク内  
TEL 076-434-1234 URL <http://www.toyama-familypark.jp/local/>

呉羽地域連合自治振興会 呉羽地区自治振興会 長岡地区自治振興会 寒江地区自治振興会 老田地区自治振興会 古沢地区自治振興会  
池多地区自治振興会 桜谷地区自治振興会 五福地区自治振興会 神明地区自治振興会 呉羽丘陵にホテルを呼ぶ会 富山市北商工会  
富山西ライオンズクラブ 呉羽山観光協会 呉羽懇話会 (有)まちづくり公社呉羽 JAなのはな南部支店 国立大学法人富山大学 富山短期大学  
富山市立呉羽中学校 富山市立呉羽小学校 富山市立長岡小学校 富山市立寒江小学校 富山市立老田小学校 富山市立古沢小学校  
富山市立池多小学校 富山市立桜谷小学校 富山市立五福小学校 富山市立神明小学校 きんたろう倶楽部 市民いきものメイト 呉羽丘陵森の楽校  
素の会 富山県埋蔵文化財センター 富山県呉羽青少年自然の家 呉羽ハイツ 富山ファミリーパーク 富山ガラス工房 富山ガラス造形研究所  
富山市民俗民芸村 富山県埋蔵文化財センター 呉羽消防署 富山市天文台 特定非営利活動法人里山倶楽部

## 同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
富田地区	71	岐阜県	恵那市	農地と景観保全に向け、米卸事業者との協働により農業体験・研修の場に
トヨタの森	74	愛知県	豊田市	企業CSRの一環として自社保有の森を環境学習や調査の場に提供
漆の里山	141	鹿児島県	始良市	里山自然学校、農業体験などを通じ放棄地を減らす地元農家を支援

## 取組の手法④-c: フィールドを確保し、プログラムを運営する体制の整備

### 森と風のがっこう(岩手県葛巻町)



岩手県葛巻町

## 基本情報

所在地	岩手県岩手郡葛巻町江刈	
主な取組内容	廃校を舞台にした環境教育、里山地域資源を生かしたエコライフ実践	
実施体制	中心的主体	NPO法人岩手子ども環境研究所(森と風のがっこう)
	連携主体等	葛巻町
生態系タイプ分類	コナラ林(東日本)	
地域区分	奥山周辺	
環境タイプ	二次林	

## 取組内容

「森と風のがっこう」は標高700m、12世帯の集落にある廃校を再利用したエコスクールである。2001年、葛巻町の協力を得て岩手子ども環境研究所が開校した。自然エネルギーや足元にある資源を活かした循環型の生活が、楽しみながら子どもも大人も体験できる場をつくり出してきた。北欧のライフスタイルと地場の暮らしにまなびながら過去と未来をつなぐ新たな道を模索し、地元の子どもの居場所づくり、長期自然エネルギー体験スクールなどを実施している。自然資源を取り入れた循環型のライフスタイルを子どもから大人まで体験を通して楽しみながら学びあう多様な活動を進めてきたことが特徴で、来訪者や地域住民が交流する場にもなっている。



がっこう裏の川で水車をまわす子どもたち



POINT 1

廃校を利用した活動の拠点づくり

廃校を中心として地域にある資源や自然エネルギーを活かす活動拠点を協働作業で整備

「森と風のがっこう」の拠点は、新しいものを作るのではなく、足元にある資源を活用するという考えから、廃校となった小学校の施設を利用して整備された。その内容は空き缶風呂やコンポストトイレ、バイオガス装置といったエネルギー利用施設や、子どもの遊び場、農場、カフェなど、多岐にわたっている。地域にある未利用資源などを活用することを方針とし、ボランティアや専門化など多様な人々と協力しながら整備してきた。これらの設備が複合的に機能し、循環型の暮らし体験の場、子どもの居場所、地域との交流の場といった役割を果たしている。



森と風のがっこうの施設（「森と風のがっこう」ホームページより）



主な各施設の内容

施設名	内容
森の冒険遊び場	森と風のがっこう裏にある森と小川は、五感を通して自然にふれる、子どもたちが心からだをいきいきと解き放つ場所。自然の中に手作り遊具が設置されている。イワナが川もかっこうの遊び場となる。
畑	毎年開拓を続け、現在では1反以上の広さになった。ニワトリの糞やバイオガスプラントで作られる液肥を利用し、無農薬有機栽培で作物を育てている。豆・カボチャ・トマト・ほうれん草・イチゴなど、収穫した作物は、カフェでの料理やイベントでの食事にも使われている。目指せ、自給自足！
陶管浄化装置	生活雑排水を土に入れながら浄化する装置。空つなぎした陶管のすき間から流れ出た汚水が、毛管現象で土や横に広がり、それを植物の根が吸収しやすいように微生物が分解してくれる。温室内の畑の下に埋まっている。
バイオガスプラント	嫌気性微生物であるメタン菌の働きによって生ごみや糞尿などの有機物からバイオガスと発酵液肥を生み出す。
エコキャビン	100%自然エネルギーを利用する滞在型研修施設を目指して整備。
カフェ森風	地元にあるものを活かして整備したエコロジカル建築。メニューにも地元の食材を使用。地域の交流の場にもなっている。

POINT 2

体験プログラムを盛り込んだエコスクール

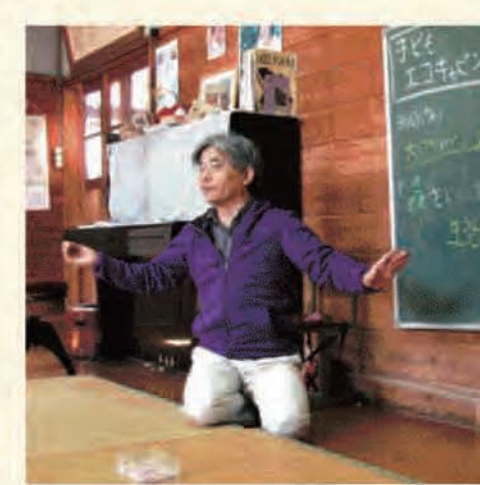
持続可能な暮らし方を実際に体験し、楽しみながら学習

上記の施設を利用し、テーマや対象に応じた多様な体験プログラムを実施している。体験により循環型の暮らしがどのようなものであるか身をもって体験することができ、持続可能な地域づくりに対する理解・認識の向上につながっている。プログラムの内容によっては、「森と風のがっこう」の常勤職員のほか、ボランティアや外部の講師等と協力して運営している。

主なプログラムの例

テーマ	プログラムの例	概要
エコロジカルな暮らし	● 自然エネルギーがっこう (大人対象)	森と風のがっこうの環境教育のノウハウの提供や、循環型の暮らしの施設見学・体験などを1泊~2泊のプログラムで開催。
	● くずまき・子どもESDサマースクール (子ども対象)	全国でも他に例を見ない自然エネルギーをテーマとした長期のエコ生活体験プログラム。生活そのものをプログラムの軸に据えながら、エネルギーの循環、自然資源を活かしてきた山村の暮らし方、いのちのつながり、アート、演劇など様々なテーマが混じり合いながらこれからの持続可能な暮らし方を体験を通して考える。
	● 各種体験研修会 (団体・小グループ対象)	森と風のがっこうにおける研修・視察を受け入れている。内容は相談に応じて、自然エネルギー、パーマカルチャー、廃校再利用、地域づくり、エコライフ、自然体験など。
子どもの居場所づくり	● 子どもオープンデー	子どもたちが自然の中で遊びながら心と体を開放するプログラム。
	● 自然体験キャンプ	森や川で遊んだり、土がまの中に薪を燃やしてピザを焼いたり、子どもたちが自然や自然エネルギーを、あそびを通じて楽しみながら実感できる教育プログラム。
	● 親子キャンプ	
地域の暮らしや自然・文化に学ぶ	● スタディツアー	地域の暮らしや自然、文化に学ぶスタディツアーを開催。
	● 食の寺子屋	地元のシニア世代の方々とともに地元の食材を見直すイベント。

- 循環型の暮らしを実現するための設備を多様な人々とともに作り上げることで、環境教育の拠点となるフィールドが形成された。
- 地域の未利用資源や農産物が積極的に利用され、地域の交流の場にもなっている。
- このフィールドを活用し、子ども、大人、団体等を対象とした様々な体験プログラムが提供されるようになり、多くの人々が参加している。



取組のキーパーソン・キーセクション

NPO法人岩手子ども環境研究所(森と風のがっこう)  
理事長 吉成信夫さん

東京のコンサルティング会社に勤務していた吉成さんは1996年に岩手県に移住し、2001年に葛巻町と協力して「森と風のがっこう」を開校した。NPOのスタッフやボランティア等の協力者とともに子どもの居場所づくりや、自然エネルギー・土地の資源の利用した暮らしの体験プログラム等をコーディネートしてきた。

コンタクト先: NPO 法人岩手子ども環境研究所(森と風のがっこう)  
〒028-5403 岩手県岩手郡葛巻町江刈42地割17番地 TEL 0195-66-0646  
E-mail mori@kaze.mi.to URL <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/>

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	道県	郡市町村名	取組内容
生品・立岩地区	36	群馬県 川場村	世田谷区との交流事業による多彩なプログラムを森林整備に活用
桜宮自然公園	44	千葉県 多古町	産廃問題を機に地権者同士で里山の自然を後世に伝える公園づくり
平林地区	58	山梨県 富士川町	「ふるさと自然塾」で地元住民講師等が多彩な体験学習活動
春蘭の里	63	石川県 能登町	地域の有志による実行委員会で里山里山型ツーリズムを推進
海上の森	73	愛知県 瀬戸市	里山保全のモデル地として、人材育成や情報発信向け役割分担
上山高原	99	兵庫県 新温泉町	地域住民をはじめ多様な主体の参画と協働によるエコミュージアム推進
遊子水荷浦の段畑	123	愛媛県 宇和島市	地元住民による段畑の景観保全のための団体設立と、ジャガイモ栽培を中心とした都市農村交流事業
立神峡・里地公園	135	熊本県 氷川町	住民が里地里山の自然資源を活用した公園の維持管理に参加、公園を活用し総合学習を実施